

要 望 書

東武野田線(野田市)連続立体交差事業の
継続した事業予算の拡大について

平成 2 9 年 9 月

千葉県 野田市

野田市は千葉県の北西部に位置し、江戸川や利根川を挟んで埼玉県及び茨城県と接し、東武野田線が市域を南北に縦貫し、市街地を分断しているとともに、両県の発展に伴う交通量の増加により、主要地方道つくば野田線、野田牛久線と交差している愛宕駅、野田市駅付近は慢性的な交通渋滞が発生し、都市機能や生活形態に様々な影響が生じており、市域発展の大きな障害となっております。

連続立体交差事業は、交通障害となっている踏切を除却し、道路整備と連携して都市交通の安全と円滑化を確保する事業であり、関連する土地区画整理事業及び街路事業の施行により、駅へのアクセス性の向上、商業業務機能の強化、良好な市街地環境の形成など、まちの活性化を進めるというストック効果が図られる事業であります。

こうしたことから、東武野田線連続立体交差事業により、愛宕駅、野田市駅の2駅を含む延長約2.9キロメートルの鉄道を高架化し、11箇所の踏切除却と交差する幹線道路の整備を行い、交通渋滞や踏切事故の解消、歩行者等の安全確保を図り、鉄道により分断された市街地の一体化など将来のまちづくりを進めております。

現在、当連続立体交差事業は、清水公園駅及び野田市駅の仮ホームへの切替えも終わり、仮線に必要な用地の借地についても、土地所有者のご理解により全て整い、平成29年度中に全線の仮線切替えを予定しております。

また、駅へのアクセス性の向上のため、関連する愛宕駅東口暫定駅前広場の供用が開始され、平成29年度末には愛宕駅東口仮駅舎の供用開始を予定しており、連続立体交差事業による駅部の早期完成が待たれているところであります。

一方、市内6駅のうち、連続立体交差事業で整備中の愛宕駅及び野田市駅のみがバリアフリー化未対応となっており、高齢者等を含めた駅利用者から、事業による早急な整備要望が数多く寄せられている状況です。

野田市は、本事業に合併特例債を活用し、平成３５年度の事業完了に向け全力で取り組みながら、バリアフリー法による原則平成３２年度までの移動円滑化基準への適合整備の方針に基づき、より一層の早期事業の促進を図りたいと考えております。

そのため、関連する街路事業等の道路整備は、連立事業と緊密に関わり、高架切替えと同時に駅前広場の整備を行い、事業効果を発現したいと考えていることから、市としては、積極的に整備を進めているところです。

しかしながら、今年度の当連続立体交差事業への社会資本整備総合交付金は、昨年度に比べ増額されたものの、今後の予算確保が課題となっております。

こうした状況を踏まえ、国におかれましては、当連続立体交差事業を着実に進めるため、次の事項について特段の御配慮を賜りたく要望いたします。

なお、昨年度の追加補正予算により、全線仮線切替え工事を進めることができっておりますこと、厚く御礼申し上げます。

- 一 東武野田線(野田市)連続立体交差事業の計画的かつ円滑な実施のため、補正予算を含む継続した事業予算の拡大
- 一 連続立体交差事業を含め、国における道路関係予算の増額確保を図ること

平成２９年９月８日

野田市長 鈴木 有